へ13
1963
47

大通毎必於路去所
戎通や。通戎大や。大と
通とは二枝乃屋風。雄雄的
と発と遊里小行と。施小
何と大通古路枝と成

1863
47

如ん。友人ハ魚虎林原を
問至諸恩知己ハ知己ハ裁言ハ
知己なるを知。雖氣象ハ一人
聖魯麻ハ雖卯。西男子
少なる事一羅王ハ知る。

子ハ下の富貴乃ち。誠ハ
定年ハ命ハ雖ども人ハ
年ハ保難ども事ハ事ハ道
ハ揚くを小耳ハ稱人ハ
賛言ハ称ハ

[illegible]百八[illegible]
[illegible]。[illegible]
故事[illegible]
見し[illegible]
初[illegible]

小冊を[illegible]。[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

如亀

如亀

如亀

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の床より[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たゝしい新を好ゆがゝとおもひ南無
かゝるたんのうよしあるかゝやく
夫小船をゝいなり。山川百里をゝ
きて。人のゝ山おもかゝる。きるゝ河あるも
山と山もゝ洋河ゝ佐渡もゝ　地上みんな
橋ゝ天地一枝ゝ。日月星河一ゝ一庵
弦月のうゝ世をなれ。仏法のゝゝ角かゝ

一ゝ酒ゝ酒ゝ流ゝ完ゝ花ゝ人
ゝ和ゝんゝ大通ゝあゝ。
ゝ花ゝ形ゝ
ゝ形ゝ
ゝ枝ゝ
ゝ陳
ゝ
ゝ

シテ
まちうけひ姫シテと云おとこハもぐみ
おとこ　よとやしてア　つき　なやしく
もうハ　ハ　ハ　

ものふかの家にゆうよなどし、ハゴ[illegible]を
徒くに初て年ごろ、やうく[illegible]なんで
とゝ申ざし、首を出て我屋へ行ちを
とつくとよく知り、時こそよまちうの面
とは屋敷ぢかの者へ
渡りかなんでゝ、大の上ちがひぐつと立
出しと申さまへ、ひとゝとうぶ[illegible]も

さぶ薬めし、是は[illegible]のでんが。
[illegible]倦[illegible]云男日本酒を試んと云
一方をぐいぐいと。酒沼し酒わ[illegible]よ。
[illegible]ハ[illegible]の[illegible]でおごりけ。
みんな[illegible]ゆく。[illegible]
酒ハ[illegible]。[illegible]おうやアとハ。
川[illegible]でハなめ。[illegible]の

なる後宮にまゐる。是ぞ石拍
をまうしける。やがて賣りてけり。内海は
是ぐそびみる出けり。時雨をしてあた
家に心やすくなりて。世やれ食
代一の二ツ五ふ本に加賀一ちいさりを
守同じて。帝でハ詩がきちい流行やと。
私が友達は事命ら男ハ一斗酒を飲

で。百篇の詩を作らなどと。帝みへと。
日本しやアこア作がまりまりたと。義もて
ずと。字が点ちく流れ人ぐる
漬でもなく。鯉曇るは非。猫も初子も。
剣でそし。文斗ら。東埔風真墨ろん
ぎら。筆をあいくるを。拙竹が
よをそうし強ぐそくく。四ほの

横が。漬うり小梨や。うんぶ。緩和なる
こゝとゝ云へバ。どゝらくも肝を潰し。
おんなゝどもゝ。ものを一首たのまれ。
後つゝ。イヤ〳〵えッ汚ない。きへ。
かゝるべしゝとゝ。口合はゝるゝ。

錢代 脱レ衣 書 拘レ貸
半分 霖レ駕 額 義 題

ト云はれバ。面目なく思ひ。
ゝゝとゝト

岩衣 黄なる 時分の 帯をして
きゝゝ。よ 堅 丈 鄙 ゝ
ゝゝあバ。堀ゝゝ。ハいゝ。ゝ 郷人で。
あんないゝな。ゝゝ。ゝゝ。ゝ
第ゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

とうとう一時吹通して。ほこりを
掃きらづ〳〵ハしゝ。不潔解の
子が業ぐ。りあんとうとう。旅ぐ
掃く。田舎ハ大風ぐ。おもしが
ぬらぬと。紙屋西風を紙して一時よ。路
旅ぐ〳〵ぐよう〳〵。ちんとハ。ちりとハ
情のまんまぐんの。感ーーぐ〳〵。

又彼義ハ住吉大明神社吉社とす。吉敷
打ちゆらぐ。さいふ米も。ちりぐ
ぐ〳〵ぐ。ぐ〳〵ぐ。人でハ撞根
のしゆを。ぐも。ぐ。ちんぐ。酒屋でも
出人。酒もきりぐ。やりぐ。ふ。黄ぐ。
銀ぐ〳〵でも。内きゝ。大の。ぐ〳〵
ぐ。ぐ。ぐ。ぐでもし。ちいきい撞。

おとつくらとしが為のぶなんて
料理うへのわざくらべぶるまひ
をしたる出来ばえ紙〳〵そのでは
新奇をうつし。姫なんてやぐ着るを
ゑらぶ。迷ものおきぬ。彼方を迫
ばやい和やが蓮新がうかのサラの
ぶいく新ぶいものの新造。コレハ〳〵

いてこと入っておこしたり。友だち大勢
来たりたるハ。高時義る買
結構。小ぶる生徒の事。
どうしてこと出来ぬ。ごうとう切
しや。酒宴たくまんの世界。角ドのとも
たること。舞のあと。姫もも同ものトハヤ。仏法
かも。新はあやまりでおーづハ為こ

ぶるもの人ばかりにて。西海道をもみな
とりまきて。はやく出陣すべしとの
御諚なり。一ト番に出陣仕る人
をもまづ。くるしからぬ。でも
ぶぶりやちんつれもつて時は一ツて十五人
の。数多ぐと入一ぐ一番ぶる松奥ち。
なのんまりめづらしくとりひやし

なんぶ。ぱしして。ぬこでも。宝ち。御ぶう
ちをもとめ。れんどのや。時史ぶ
まんが。ぬ。してもまやア。れ二山ち。御ぶ
ぶ。魂丹をもめる心ぶちぐごぜいした。風
毒ち買も人の氣ぶ。ぬしくちぶ
ちのと。使をぶる人しちぶ。ぬ。ぶ
ぶちらいでぶかりぶちんもみ。ぬ。ぶ

客人とも。よくく驚ハたれど。道ゆきの
ずぐ、ゆきつくまづえんハ皆こゝを輝ハ輝ハ新い
とゝ出神滝。ちゝがとゝ。ゆりたるもたゝ。
ぜひ屋の右間がきつく。横法二つの堀を
ゑるゝとゝ浮んかゝ質ハ屋ハ右んぐん
金を蒔絵うして。下畢ゝ大きゝるよ
ぶゆゝとゝ美ゝ高ゝれども。こゝやゝ云ハ
ぶゝとゝれしゝる。ゝゝ氣ゝ沢り沢
く金ハあんゝり入ゝゝゝ見ゝ。内幕ぐ
別屋ゝゝ出ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
事ゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ殺入の美ゝ。
初金ハゝゝで開ゝゝの時ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ理蔵ゝゝゝ。
ゝゝ風ぐゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝ

うんと孫子の代をさきもめるのさ。如ゝ買
ふ引きりがゝ。高ゝ高いいゝて来る孫の孫
情ある。一。対人先ゝ。ばでい嫁ぐ内やきん。
如ゝが来ゝ。二アア孫さゝゝ。
高ゝゝ切ゝ。ゝ。れもきん。
初ゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ら。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

むすこ孫入も来ゝ。ぐん孫の
ぐん紀寿羅ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
孫入で屋へ来るを。ゝ。ゝ。ゝ。
たゝやま。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
剣ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
や。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

物の望まるのハ、くゝむかゝの不
つゝ者てゝ但し大極の色ぐちゆ
色ハ移りて有りめも弱る情の
遠ゝる事をしちやアいゝやアなし。
ちやアや如ゝ置れ道ぐりでなし。
常は結合ふもゝ事。うゝをしん
ぐりで実情が行んと。孤風を横へ

食ぐくをしゝ。やゝなゝ。とゝ
純粋のなゝ実情合ハ事でも偽でも
嘘ゝがゝりて嘘ゝやきんゝ大色ゝん
根元ハ見ゝ生れ色をしゝ。
涙を作めつゝく人のいゝをゝれゝハ
色ゝとゝ泣ハ涙よゝくゝはきゝく
おゝし。涙のつゝく行んゝ。

通人のせどふるどんな色でも二日
でもそこどめハ皆こな形ゆえ生れながら
色人ハ千人よ一人もあるかの色ハ色でく
らゐの形ハ形ゆゑ色ハ色でく
節のいく形ゆゑハ色深ゑんすりかと
いとけ節世しらふもそのもの
ぶり大きく縁ハ細しよ

水菓やあるを色ハ形ゆゑどんこ
ちらとそれりしらんと経済どのもあ
色でそこそこそこそこそこそこそこ
ぬきと縁ばりはとられるう
こうなつてこの深ゑん屏
して心の色ちゑんよ深人のまね中
こうこうこうこうこうこうこうこうこ

ぶしやもで御ん云まいもの。御人ら
人もなく又ものの御ん御ものおきちん
嘗ごくなちちやア色ごく御いて心配
面ハ。もの御ん婚姻ものいふものかおんな
おぢやアやまいくおもの御ん道ハふち
ぼくもいく。柳通くに云事ハ弟
六義ふ色ごくのもの。ちゃ十二人よりの御
ちう。大色ごくてくぐ流切ぶし。色御
家ハ御ものの色方様のふいな。
御くしハちうぢやアごぜんぢん
大きな男ふ弟御ん人色くハ
ひやきん。えび御ハ色ーるでも
色ーかるでも心やくハ御ん
通夜ちちふハ大顔えん人。御ふ

通し。神武てんのうの天眼通にて云。湯よ
り宮ゝ迄ハ。三里ゝ程ゝ也。御ゝ
ゝ通りて。ハ人ゝ程ゝ有ゝ所。
大つ通りゝの名ハ。廣し。ら。ゝ也。
通りゝ。ゝけ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

とゝ。紙人ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

人は如何なる行く時も。いろく工夫
して弓矢諸芸を出る事をなりて。
氣をつかひ心ぐいを色ぐ考へ大の腰
掛うちんぐらあるとあげめまびと。
ゆくゆく考へしかるがかんじん。
色ちがいなること。学問して
大の情をうり。大色人しとなりやとハ

云へ。色つきなど強しやハ影情
でうゆんとして様をあげ
やしてきまつ以号遠
きんな世界ハ法ひをいるサア、
順がうらひうきる
牛蒡お菓でも移べ
しやう

大通多名於路志　大尾

跋

倩思士を賢不肖とわく、
大門より入て酒屋ら張、
女中ハ美色となく、浴場
えりを詰ひ結を張、諧う

京畿堺湖東
大書機仙
よりうつし
門口に
なり
茶屋姿
女を
如く
はま
男女
茶屋姿
極
精神を
説
海
之
画
を

[illegible]
[illegible]の嘆[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]